

◆ 新年交流会2015 ◆



まるまる新年交流会が、1月31日(土)にホテルクラウンパレス青森で行われました。県立中央病院赤木副部長の挨拶に続き、当会監事の長尾浩吉さんが乾杯の音頭を取って宴会がスタート。

今回もあおりフラ協会(木村邦子事務局長)から7名が特別参加。優美なフラショーのほか、ミニ講習会を実施していただき、会場内は熱気に包まれました。



第6回骨髄バンク支援
チャリティフラショー

6月28日(土) 13:30～
八戸市公会堂

♪♪♪♪♪ リレーエッセイ ♪♪♪♪♪

第12走者 中井 睦さん

((公財)日本骨髄バンク説明員)

「骨髄バンクですが、今日は2ccの採血で骨髄提供のためのドナー登録ができるのですが、説明を聞いて登録しませんか。」

骨髄バンク説明員は、移動献血受付会場で、献血の受付が済んだ方にこのように声がけをしています。登録時の採血のことを考えると、献血バスに乗る前に説明をしなければなりません。そこで先のような声がけをするのですが、最近わかりにくい断り方をする人がいます。

「お話を聞いてみませんか。」

「大丈夫です。」

ん? 「だいじょうぶです」と言った人は皆、手を自分の顔の前で左右に振っています。それって「結構です。登録の意志はありません。話、聞きません。」ってコト?!

多分、きっぱり断ると相手の気を悪くするコトへの配慮かもしれないけれど、わかりにくいんだよねえ～。しかも何がだいじょうぶなのか。だいじょうぶじゃない患者さんが、自分と白血球の型があったドナーさんを待っているのだから、お願いしますよお～と藁にもすがる気持ちをひた隠し、「次の機会にお願いします。」と切り返します。

言葉は人の気持ちに入り込むものだから、登録された方には「患者さんが喜びます。ありがとうございました。」と感謝の言葉で結び、登録に至らなかった方には「お話を聞いていただいてありがとうございました。」と説明を聞く時間をさいてくれたことにお礼を言っています。

「だいじょうぶ。」という言葉が、「登録に問題はありません。だいじょうぶ。」という方の意味になることを願って、活動をがんばっていきます。そう言えば、まるまるの歌のフレーズに、だいじょうぶってありましたね。

➡ 次のバトンは、ドナー登録で一緒にする **青山春美さん** をお願いいたします。

投稿

納谷 むつみ さん(会員)

最近「がんばって」と言わないようにしよう、という風潮があります。がんばっている人に「がんばって」と言うのは好ましくない場合があるのはもっともな事です、時と場合とお互いの関係性を踏まえた上で、「がんばって」と言われることで励まされることもあると思っています。

お掃除に来る小柄な藤林さん(勝手に実名)、今も血液内科のご担当でしょうか。いつも真剣な顔をしてきびきびとお掃除されていますが、二言三言お話ししてくれる時の笑顔にいつも気持ちが明るくなりました。

最後の治療は、1月の半ばから大量抗がん剤ということで準無菌室に入りました。準無菌室では午前も午後もお掃除があります。それまでは抗がん剤の副作用はほとんどありませんでしたが、大量抗がん剤ではさすがに具合の悪い日が続き、藤林さんがお掃除に来ては挨拶も出来ませんでした。口もきけない具合の悪さがいつまで続くのかという不安や、無理して動いたらどうになってしまうのかという恐怖もあったと思います。手早く黙々と掃除をする藤林さんと、声も出せずに横になっているだけの自分、同じ場所にいるのに世界が全く違うような感じがしました。

ですが、具合の悪さはいつまでも続きませんでした。ある朝やっと、寝たままでしたが「おはようございます」と言えました。その時の藤林さんの嬉しそうな笑顔は忘れられません。

～入院の思い出～ 「藤林さんの『がんばって』」

「具合よくなった？掃除しながら、がんばって、がんばって！って思ってるんだよー。」「がんばっている人にがんばってって言うのはよくないけど、がんばってねー。」と輝くような笑顔で言ってもらい、嬉しくて嬉しくて、ただだと涙が出ました。藤林さんが心配していること、喜んでいること、本当に本当に心の底から「がんばって良くなって!!」と思っていることが実感されて、その時ばかりは具合の悪さも忘れてしまいました。

辛い時こそ気持ちを前向きに、と思うのですが予想もしない大きな病気になる不安、いつまでも続く具合の悪さ、そんな時に前を向くこと、向き続けることは簡単ではありません。うつむいてしまう心と体が自然と前を向いてしまうような明るさ、暖かさは、どうしたら手に入るのでしょうか。

準無菌室で過ごした冬は、北国の冬らしく暗く重苦しく、明るいあおぞらが見えるのは一瞬で、窓の外はあつという間に灰色になってしまいました。あの陰鬱な雰囲気も元気だったら楽しめたかも、と残念な気もしますが、一瞬のあおぞらは「明日は晴れかも」という希望になり、冬が終われば春が来るという紛れもない事実を思い出させてくれました。

藤林さんの笑顔は今でも、そんなあおぞらの様に、ささいな事で曇りがちな胸の内を明るく温めてくれる大事な大事な思い出です。

(つづく)

～下北地域での「地域談話会」を計画しています～

～入院の思い出～を連載中の納谷むつみさんが、下北地域での談話会を準備中です。患者・家族で、お茶を手近に近況や情報を交換しましょう。

日程や場所は参加希望者と相談しながら決めることにしていますので、参加できる方は納谷さんまでお電話をください。

電話:090-3126-6601 (なや)



● まろまろからのいろいろなお知らせ

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015青森

リレー・フォー・ライフ(命のリレー)は、がん患者さんやご家族、その支援者の皆様が交替で24時間夜通し歩き、がん征圧への願いを新たにし、絆を深め合うチャリティ・イベントです。青森会場では、マエダアリーナの屋外広場にリレー用のコースを設け、交替で歩きます。コースの内側には、患者さんや家族、医療関係者などいろいろな方が交流できる「交流テント」が設置されます。

日時:平成27年9月5日(土)11時 オープニング
9月6日(日)12時 フィナーレ

会場:マエダアリーナ(青森市宮田)

当会にも患者・家族会の1つとして実行委員会から参加依頼があり、出場することとしています。詳細が決まりましたら皆様にお知らせするとともに、参加者を募集しますので、ご協力をお願いします。

※実行委員会では、「交流テント」のおもてなし隊員を募集しています。お問い合わせは、実行委員会メンバーの前田さんまで。(090-6920-3612)

2015年
9月 雨天決行
5日[土]11:00 オープニング
~6日[日]12:00 フィナーレ
場所 マエダアリーナ (新青森県総合運動公園)

スタッフとして
イベントを円滑に進行させる活動も実行委員として
当日の会場経営・運営にボランティアとして

参加方法はいろいろあります

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015青森

その他の参加方法
・募金箱設置
・支援型自販機設置
・協賛金支援など

RELAY FOR LIFE JAPAN CANCER SOCIETY

リレー・フォー・ライフ・ジャパン青森実行委員会
〒030-0802 青森市本町1丁目3-9 ニッセイ青森本町ビル10F
ソニー生命保険株式会社青森支社内 RPLJA事務局 加藤 智二
TEL: 090-4888-5825 FAX: 017-721-1971 MAIL: info@rflj-aomori.com



骨髄バンク情報 (H27年4月末現在)

	全国	青森県
患者登録者数	1,472人	19人
ドナー登録者数	451,085人	6,832人
対象人口千人あたり	7.98人	12.03人(10位)

—資料: (公財)日本骨髄バンク—

お茶会に参加しませんか

毎月第4土曜日に談話会を開いています。会員でない方も大歓迎です。

◇開催日 毎月第4土曜日 午後2時~4時
◇場所 県立中央病院 8階病棟食堂

血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまろ

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来
TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083
〒030-8553 青森県青森市東造道2-1-1

県病HP <http://www.aomori-kenbyo.jp/ketsueki>
ブログ <http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com>
Twitter http://twitter.com/maromaro_aomori

